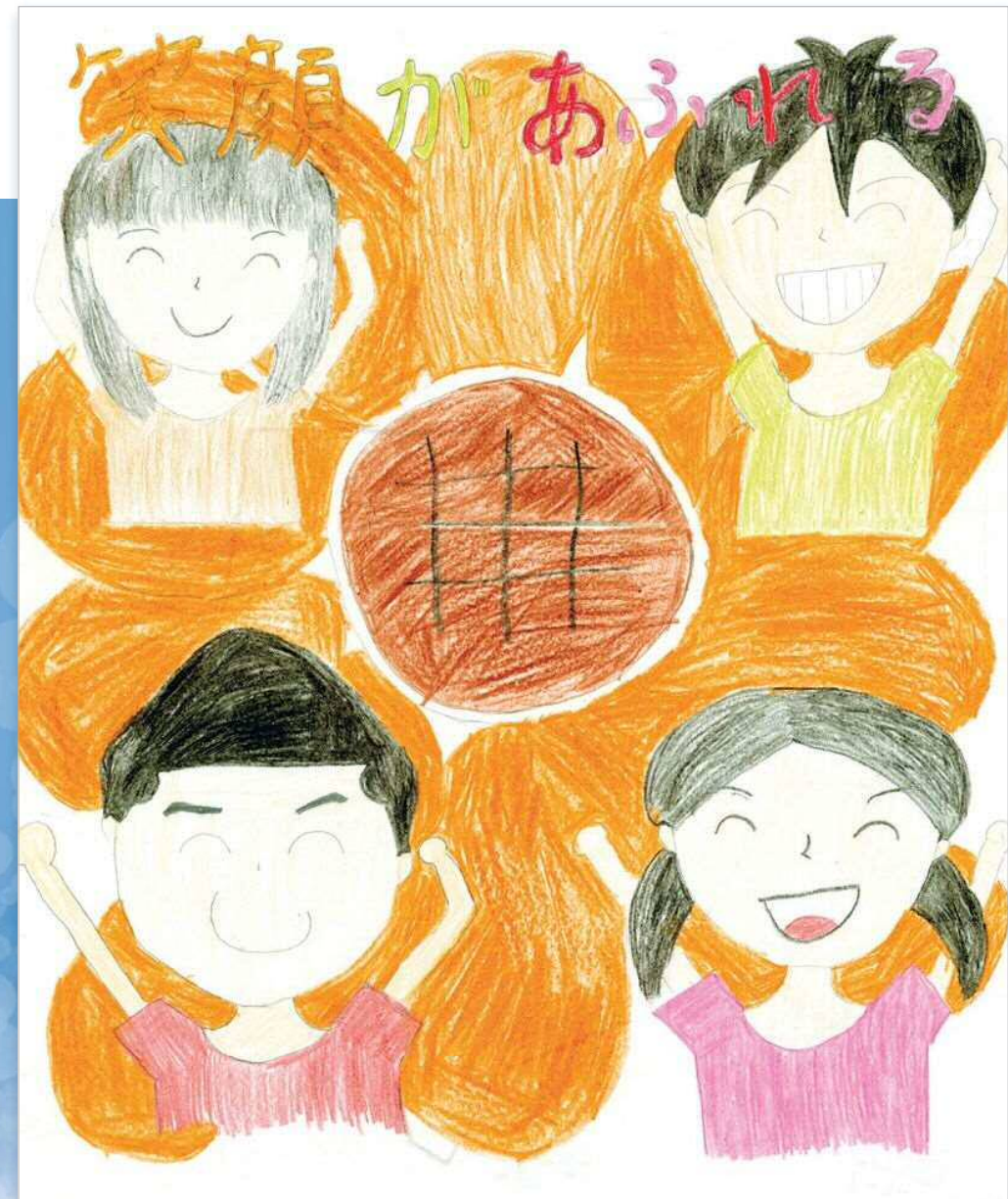


3 元気

基本計画

理念ごとの計画⑥ 誰もがいきいきと明るく、
活気にあふれているまち



双峰小学校 6年
岡田 若葉さん

豊明に笑顔があふれるようなイメージで描きました。

めざすまちの姿

28. 子どもを産み育てやすいまちになっており、 子どもの数が増えている

現状と課題

サービス産業への産業構造の変化は女性の就労を促進し、家族のあり方も変化してきました。女性の初婚年齢が昭和45年では24.2歳であるのに対し平成24年では29.2歳となり、女性の経済的自立により晩婚化や未婚化が進行し、少子化の一つの要因となっています。また、結婚後においては景気低迷の影響による世帯収入の減少や核家族化などによる子育ての不安感の増加、待機児童対策の遅れなど子どもを持ちたくても持ちにくい状況も発生しています。さらに、不妊治療に対する要望も高まっています。

本市では、子育ての不安感を軽減するために、妊娠期からの支援や出産後の赤ちゃん訪問、育児相談、セミナーの開催などさまざまな事業を実施しています。今後は、育児休業などが取りやすい職場環境づくりに取り組んでいる企業への支援など、仕事と子育ての両立ができる環境の整備も必要です。また、不妊治療に対しては、県と市において、それぞれ特定不妊治療と一般不妊治療の費用助成を行っていますが、経済的支援と同時に不妊専門相談センターと連携した心のケアを行うことも重要です。

まちづくり指標

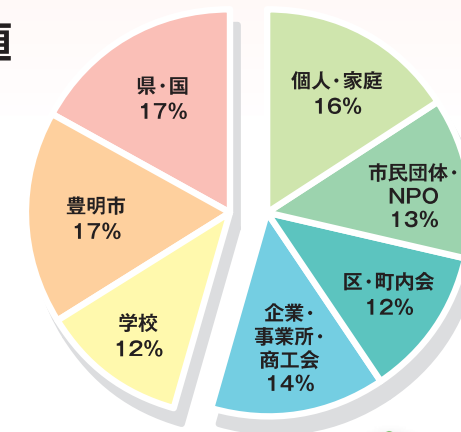
「めざすまちの姿」の達成状況を評価するための指標です。

項目	現状値	めざそう値	
		5年後	10年後
1 子育てが楽しいと思っている市民の割合	84.5%	88.8%	92.3%
2 0～14歳の子どもの数	9,749人	10,011人	10,445人
3 豊明市の出生率	8.1人/千人	8.8/千人	10.1/千人
4 市内にある小児科、産婦人科の数	3	5	5

※毎年、現状値を測定し、めざすまちの姿の達成状況を評価し、事業の改善につなげていきます。

役割期待値

5段階評価のアンケート調査をもとに設定した、「めざすまちの姿」を実現していく上での各まちづくりの主体に対する期待値です。



市が取り組むこと

【大施策】 子どもを安心して産み育てられるまちをつくる

【中施策】

- 緊急時に対応できる体制を整える
- 家庭や地域が子どもを大切に思い、支え合うことができるまちを醸成する
- ゆとりを持って男女共に子育てを楽しむことができるよう応援する
- 仕事と子育ての両立ができる環境をつくる
- 男女の出会いの機会を創出する

※めざすまちの姿を実現していくために、手段である事業は臨機応変に見直していきます。

市民ができること

- 地域で子育てを見守り、毎日小さな親切を心がけることができます。
- 地域で子どもがのびのびと遊べる場をつくることができます。
- 企業や商店、NPOは、子ども向けのサービスを増やすことができます。



子育て支援センター

連携

めざすまちの姿

29. 子どもが元気に外で遊んでいる

■ 現状と課題

都市化や少子化が進化したことで、子どもにとって遊ぶ場所、遊ぶ仲間、遊ぶ時間が減少しています。また、親自身の経験不足や身近にお手本となる人がいないなどの理由から、子どもとの遊び方が分からないといった声も聞かれます。さらに、保護者からすると交通事故や犯罪などの心配があり、子どもが外で体を動かして遊ぶ機会がより一層減少しています。このことは、子どもの成長期において、運動能力の発達を阻害するだけでなく、心の発達への影響も心配されます。

本市では、乳児期から幼児期の子どもに対して、子育て支援センターや児童館、幼稚園、保育園等において、職員が主体的に体を動かす遊びを中心とした身体活動の時間を確保し、運動能力を身につけられるよう配慮しています。また、学校では、体育の授業や部活動など体を動かす機会を提供している反面、帰宅するとゲームに熱中する子どもやスマートフォンが手放せない子どもも少なくありません。

都市公園は、池の水面も含めると一人あたり公園面積は県平均に比べて大きいですが、地域によって整備状況に差があります。さらに、多くの公園は、供用開始から30年以上が経過しており、老朽化への対応が課題となっています。加えて、公園が安心して遊べる場所であるためには、地域の人を見守る目も必要です。

■ まちづくり指標

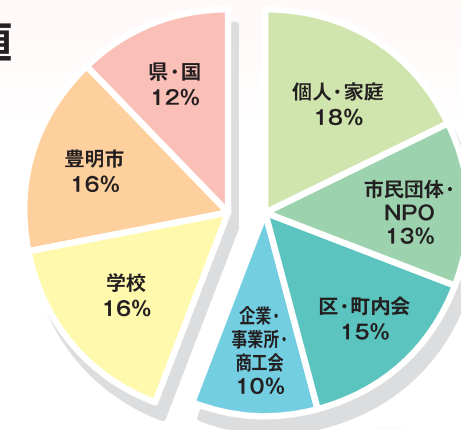
「めざすまちの姿」の達成状況を評価するための指標です。

項目	現状値	めざそう値	
		5年後	10年後
1 自由に楽しく体を動かしていると思う子どもの割合	56.2%	65.5%	74.6%
2 子どもが外で元気に安全に遊べると感じている保護者の割合	35.1%	46.4%	57.9%
3 子どもが元気に外で遊んでいると思う市民の割合	39.0%	49.7%	60.2%

※毎年、現状値を測定し、めざすまちの姿の達成状況を評価し、事業の改善につなげていきます。

■ 役割期待値

5段階評価のアンケート調査をもとに設定した、「めざすまちの姿」を実現していく上での各まちづくりの主体に対する期待値です。



市が取り組むこと

【大施策】 子どもが元気に外で遊べるまちをつくる

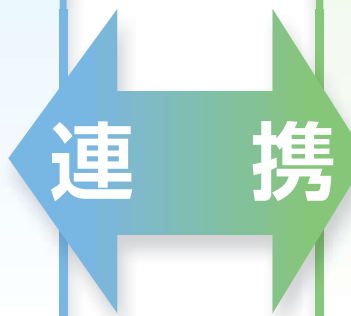
【中施策】

- 子どもの健康な育みを支援する
- 身近に安心して遊べる場所を整備する
- 身近で共に遊べる仲間づくりを支援する
- 子どもが外で遊ぶことへの理解を広める

※めざすまちの姿を実現していくために、手段である事業は臨機応変に見直していきます。

市民ができること

- 地域の公園の清掃や、子どもの見守りボランティアを行うことで、子どもが安心して外で遊べる環境をつくることができます。
- 子どもと遊んだり、語り合ったりする企画を考え、開催することができます。
- 地域で起こった子どもの事故や犯罪に関する情報を速やかに共有し、対策を考えることができます。
- 保護者が子どもの外遊びを促すことができるように、地域で応援することができます。



めざすまちの姿

30. 子どもの個性や感性を尊重し、伸ばしている

現状と課題

社会の変化やグローバル化の進展にともなって、子どもの興味や関心、夢なども多様化してきています。子どもの基礎学力の向上を図りながらも子どもが様々なことを学ぶ機会・体験を増やしていくことで、学習に対する意欲が高まり、個性を豊かに伸ばすことができます。

教育の現場では、学習指導要領の趣旨にのっとり、一人ひとりの子どもの個性を尊重した教育活動を実践しています。授業中の子どもたちの何気ないつづやきを教師が拾い上げて授業を展開したり、友だちの良いところを見つけ出してより良い人間関係を築けるようにしたりするなど、教師はあの手この手を駆使して日々子どもたちと向き合っています。最近は発達障害による集団生活に適應できない子どもが増加しており、様々な子どもたちと向き合っていくための体制づくりが今後の課題となっています。

また、本市ではスポーツクラブなどを展開するとともに、大学との連携やプロ講師による小中学生向けの専門講座を行っています。

まちづくり指標

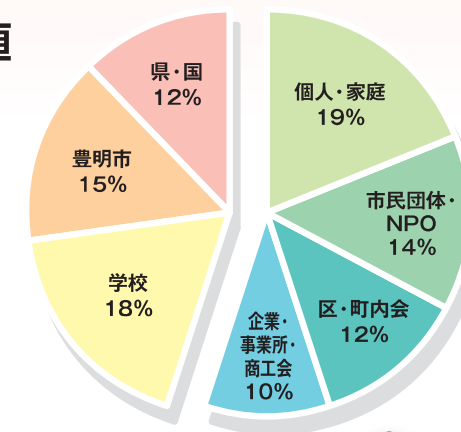
「めざすまちの姿」の達成状況を評価するための指標です。

項目	現状値	めざそう値	
		5年後	10年後
1 一人ひとりの個性や違いを受け入れていると思う市民の割合	84.4%	87.5%	90.3%
2 子どもが参加できる教室やサークルの数	33	43	53
3 積極的に自分の好きなことを見つけて取り組んでいる子どもの割合	84.9%	88.1%	90.9%
4 子どもの行動に対して親の価値観でコントロールしていない親の割合	35.4%	44.3%	53.9%

※毎年、現状値を測定し、めざすまちの姿の達成状況を評価し、事業の改善につなげていきます。

役割期待値

5段階評価のアンケート調査をもとに設定した、「めざすまちの姿」を実現していく上での各まちづくりの主体に対する期待値です。



市が取り組むこと

【大施策】 子どもの個性や感性を尊重し、伸ばす環境をつくる

【中施策】

- 自分を好きでいられるようにする
- 好きなことを学び、活動できる機会や場を増やす
- 好きなことができるように周りの大人の理解を深め、支援できるようにする

※めざすまちの姿を実現していくために、手段である事業は臨機応変に見直していきます。

市民ができること

- 子どもの自発性が高まるように、各家庭で子どもの役割をつくることができます。
- 市民が作品展等を開催したり、さまざまな情報を発信し、子どもが色々なものに触れたり体験できる機会をつくることができます。
- 大人が子どもに「まちがっても大丈夫」「話したいことを話してもいい」という雰囲気をつくることができます。
- 子ども一人ひとりの価値観を大切にすることができます。

連携

めざすまちの姿

31. 豊明市に魅力があふれ、「通過するまち」から、「足を運んでいただけるまち」になっている

■ 現状と課題

本市は名古屋市に隣接し、南部には伊勢湾岸自動車道、国道23号、国道1号などの主要道路と名鉄名古屋本線3駅を有し、尾張地域と三河地域をつなぐ交通の要衝になっており、毎日多くの人々が利用しています。この多くの人々の流れを市内に十分誘引できていないことが、「通過するまち」という印象を与えていることは否めません。また、魅力的なコンテンツの周知不足や、人を惹きつけられる新たな資源の発掘ができていないこともその印象を強くしています。

本市には、桶狭間古戦場伝説地をはじめとした桶狭間の戦いに関する史跡、大脇梯子獅子や上高根警固まつりなどの伝統行事、二村山、ナガバノイシモチソウなど自然・歴史・文化に関連する観光資源があります。特に桶狭間古戦場伝説地は、その歴史的価値を考えると、観光地としてのポテンシャルは高く、周辺整備や周知活動がまだまだ不足しています。他にもJRA中京競馬場、藤田保健衛生大学病院、花き市場など、全国的に名が知れたコンテンツを活かした施策や地域特性を前面に出したシティプロモーションが必要です。今後、行政・市民・事業者など関係者が連携して取り組んでいく必要があります。

■ まちづくり指標

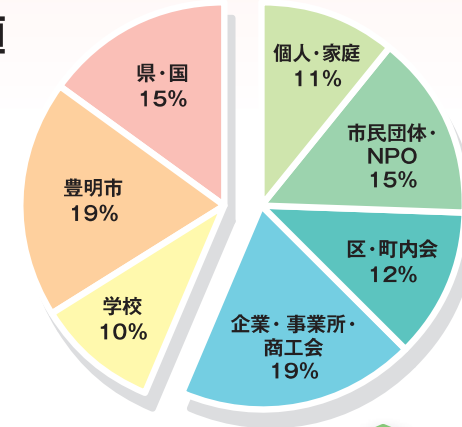
「めざすまちの姿」の達成状況を評価するための指標です。

項目	現状値	めざそう値	
		5年後	10年後
1 市内のイベント、お店、施設がメディアで紹介された件数	123件	148件	172件
2 市外から人を呼べるような場やイベントなどがあると認める市民の割合	21.2%	31.1%	40.1%
3 豊明インターを利用した自動車数	33,700台	35,596台	37,916台

※毎年、現状値を測定し、めざすまちの姿の達成状況を評価し、事業の改善につなげていきます。

■ 役割期待値

5段階評価のアンケート調査をもとに設定した、「めざすまちの姿」を実現していく上での各まちづくりの主体に対する期待値です。



市が取り組むこと

【大施策】 **とよあけの魅力を高め、訪れる人を増やす**

【中施策】

- 「行きたい」場所をつくる
- とよあけの魅力を発信する

※めざすまちの姿を実現していくために、手段である事業は臨機応変に見直していきます。

市民ができること

- 市民やNPO、企業は、豊明グルメ・特産品の開発や発信を行うことができます。
- 市民やNPO、企業は、とよあけの歴史や文化をテーマとしたイベントなどを企画・運営することができます。
- 市民一人ひとりが観光大使になり、豊明の魅力を伝えることができます。



軽トラ市



めざすまちの姿

32. 市内に遊ぶ場所や働く場所があり、豊明市が潤っている

現状と課題

本市における産業は、人口減少や高齢化、経済活動の国際化などによる競争の激化等の構造変化に直面しています。商業では、近隣市町に立地した大型店等の影響などにより、消費が市外に流出し、市内での消費は停滞しています。今後は、超高齢社会を見据え、誰もが快適に買い物ができる環境整備が求められます。また、工業では、まとまった規模の産業用地が市内に整備されておらず、新たな産業用地についての需要に応えられないことなどから、平成21年以降、製造品出荷額等は低い水準で横ばいになっています。一方、農業では、TPP問題、高齢化や後継者不足による耕作放棄地の増加など、様々な問題を抱えています。

今後は、土地利用の見直しを行うなど、産業立地の推進や空き店舗等を活用した起業、農業生産法人等による新たな産業の創出等が課題となっています。多様な業種の事業所ができることで、市内での雇用を増やすとともに、税収増につなげることが必要です。

まちづくり指標

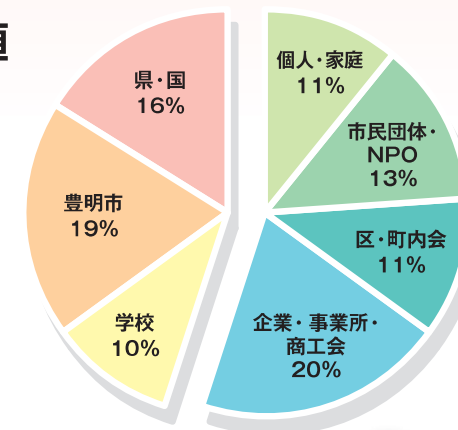
「めざすまちの姿」の達成状況を評価するための指標です。

項目	現状値	めざそう値		
		5年後	10年後	
1 市外から豊明市に働きに来ている人の数	3,593人	3,949人	4,344人	
2 法人市民税額	687,361千円	699,370千円	715,528千円	
3 農業産出量	米	553,770kg	560,375kg	565,530kg
	麦	14,093kg	17,092kg	19,746kg
	大豆	11,107kg	11,937kg	12,442kg
4 市外から豊明市に遊びに来ている人が多いと思う市民の割合	43.0%	49.4%	56.4%	

※毎年、現状値を測定し、めざすまちの姿の達成状況を評価し、事業の改善につなげていきます。

役割期待値

5段階評価のアンケート調査をもとに設定した、「めざすまちの姿」を実現していく上での各まちづくりの主体に対する期待値です。



市が取り組むこと

【大施策】 地域の経済活動が盛んなまちをつくる

【中施策】

魅力ある職場づくりを促進する

産業の活性化を図る

※めざすまちの姿を実現していくために、手段である事業は臨機応変に見直していきます。

市民ができること

- 農業生産法人を立ち上げるなど、新たな産業の可能性について考えることができます。
- 企業やNPOは、駅前空き店舗や空間を活用し、出店することができます。
- 市民や地域は企業誘致への理解と協力をすることができます。



連携